

2014 後期 2

# 書名・著者名などの基本情報

はしぐち こうのすけ  
橋口 侯之介

## 書名は「内題」を採用する原則 『和本入門』 pp109-130

『白氏文集』か『白氏長慶集』か  
『海錯図』は『建氏画苑』の付録

内題が無い本 物語・俳諧書・草双紙

いろいろな題名 (別書名)

外題 序題 目録題 巻頭題 見返し題 柱題

尾題 跋題

柱題しかないときもある

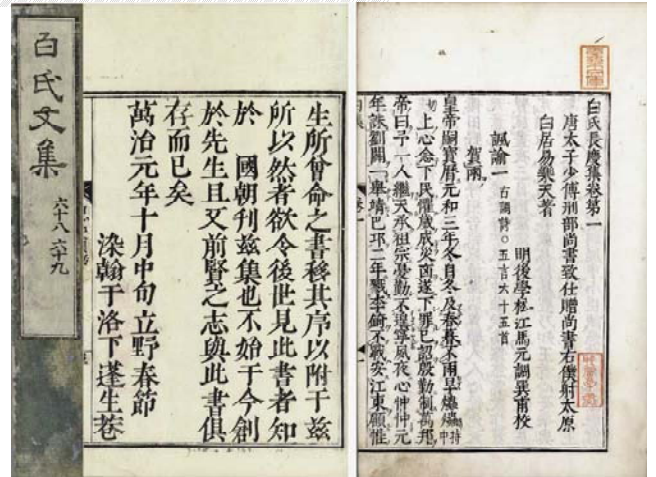
## 角書とは

新板 絵入 増補 改訂 頭注 (龍頭) 新撰などが多い。

表紙 (題簽) に書かれることが多く、内題に入るときとそうでないときがある。

『李不尽通詩選』 『李于鱗唐詩選』のパロディ

『黄金長者白金長者江戸砂子娘敵討』 黄表紙や合巻は長い



## 著者とは? かな書の場合 (歌集・物語・国学)

『源氏物語』 どこにも作者名の記述はない

お伽草子、仮名草子、浮世草子 西鶴本?

## 漢学者の著述は、中国の伝統にならう

郷貫・号・姓・名・字

実際に本の巻頭に書かれる著者名の表記法。 『和本入門』 pp131-135

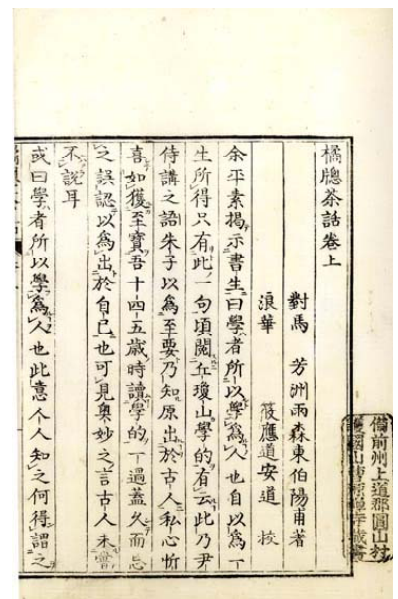
対馬芳洲雨森東伯陽 (『橘窓茶話』より)

上記『白氏文集』の「唐太子……」のところ。大半は肩書きで、

「太原白居易楽天」が著者表記。名は居易、字が楽天 香山は号。

では次の行の「明後学……」は?

陶潜 淵明は字 諡は靖節 『和本入門』 p144



省略もあり、号は入らないことが多い。しかし、順番は変えない。

「東都寒葉齋建久域孟喬」とは?

建部綾足は 寒葉齋 (絵師)、涼袋 (俳諧)、綾太里 (和学) など10種以上の号を使い分けた。

名は久域、字は孟喬、通称は金吾、 建綾足 (けんりょうそく) と修する

鵬齋亀田興とは? 仁科白谷は?

日本人も本に出てくるのは、林道春、藤維禎、源君美、物茂卿、皆川愿

修する=中国風に姓名を三文字にすること。

## 「統一著者名」

日本人の学者は姓・号で統一して表記する 『和本入門』 p143

林羅山、伊藤仁斎、新井白石、荻生徂徠、皆川淇園

国学者は本居宣長、賀茂真淵などそのままが多い。滝沢馬琴は曲亭馬琴で統一

## 著者の役割 『和本入門』pp146-148から抜粋

**著** もっとも一般的な用語。内容に創造性がある、それに書き手が責任を有することが条件。

**撰** 江戸時代は著とほぼ同義。選ぶこととは区別される。厳密には著ほど創造性はないが、その人の文章で事柄を述べたときに使う。本に「〇〇撰」とあったら、著に変えてしまわずにそのまま記述すべき。なお勅撰集のように和歌の撰はえらぶ意味で用いている。

**選** 先人の作品の中から優れたものを選んでまとめること。撰との違いに注意。

**述** 文字どおり講義などで述べたことを筆記して文章化したとき。意見を述べた者とも。

**書** 文字を書いた者。写本を書いた人ということで筆を用いるときもある。

**抄** (鈔) 抜き書きをする(抄録)、写すこと(手抄)。注釈を加えることにも使う。

**編** 諸説を集めた後、それらを総合し系統立てること。篇は書物の部立てに用いる。

**集** 文章や詩歌などの材料を集めてまとめること。

**輯** 集とほぼ同じだが、もう少し編集に近く系統立てるという意味がある。聚や緝とも。

**纂** 現在では編と同義に用いるが、正しくは編した後さらに厳密に整理を加えることをいう。

したがって、輯・編・纂の順でしだいに高度な編集をすることになる。

**作** 作者という意味で著と同じ。草紙類は著といわずこの作を用いることが多い。文章以外の本のときにこれを用いることがある。たとえば地図の製作。

**注(註)** より深い理解が得られるように本文に加える説明。解釈も加えたときは注釈となる。

**疏** 古人の注を集めてさらにその注に解釈を加えること。注疏ともいう。古くはしよといった。

**解** 解釈。げともいう。各家の解に取捨をくわえたものを集解という。注とともにあれば注解。

**義** 文字や文章の意味を解説すること。漢籍では音韻とともに解説するときは音義といい、とくに経書(四書五経など)の本文に解説を加えることを正義という。

**校** 校訂 校正。字句の誤りを正す。他の文と文字の照合をおこなうことを校合という。

**画** 画家。挿画、絵巻、絵本作家。図・絵ともいう。

## 巻数と冊数

卷子本が主流だった時代は、文字通り1巻は1軸だった。そのご、冊子本となったときに、1巻=1冊とは限らなくなった。

近世の「1巻」は現代風に言えば1章、2章にあたる。本の厚さによって恣意的に変わる。初印のときは1巻=1冊だったものが、後印本は2巻1冊になることが多い。その逆はめったにない。

## 分類をどう入れる

古典には古典にふさわしい分類がある。既存の図書館のNDCは近代以降の書籍にはよいが、和本には向かない。

国文学研究資料館「日本古典籍分類表」によるのが良い。

[https://www.nijl.ac.jp/pages/research/activity/classify\\_koten/](https://www.nijl.ac.jp/pages/research/activity/classify_koten/)

唐本・漢籍は中国の四庫分類でおこなう。『和本入門』 PP156-158